



純福音東京教会 洗礼式

目次

- P2. 札幌神学校開校式・記念礼拝
- P4. 崔龍雨牧師招請・祝福聖会
- P5. 浸礼式@秋川祈禱院
- P6. 担任牧師コラム「喜びの泉」
- P6. 北海道宣教&浸礼式



教会の3大ビジョン


- 聖霊に満たされる教会
- 御言葉と賛美と祈りに満ち溢れる教会
- 愛を実践する教会

教会の3大目標

- 家族の救いと家庭礼拝の実践
- 地・区域長300名
- 100の教会

発行 || 純福音東京教会
編集 || 文書宣教会
所在地 || 新宿区歌舞伎町2-2-19
電話 || 03-3232-0667
FAX || 03-3232-0729
WEB || www.fgtc.jp



純福音東京教会の
ホームページはこちら 
(ホームページからも新聞が見られます。)

<https://www.fgtc.jp>



日本宣教の基地となる札幌神学校が開校

2022年4月5日

札幌神学校開校式の前夜の聖霊待望会 2022.4.4(月)

「このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。」
— コリント人への第一の手紙13:13 —

2022年4月4日、純福音東京教会札幌聖殿にて、聖霊待望会が行われ、純福音東京教会の志垣重政担任牧師はこの聖句を用いて「永遠なる宝物」と題して神様のメッセージを取り次ぎました。

“神の愛の中で生きる私たちは、祈り求めることで主の御旨である「愛を実践するビジョン」を夢として心に抱くことができ、そのビジョンは主の計画の中で必ず成し遂げられる。

そして私たちはその夢・ビジョンに向けて働く過程で、神の力を経験できる。”と述べ伝え、聖霊待望会を導きました。

札幌聖殿に集まった120人以上の聖徒たちが、聖霊様のご臨在の中で、御言葉を握り、イエス・キリストの共同体のビジョンである日本一千万救霊の実現に向けて、心をひとつにし、神様に祈りを捧げることができたことを、心より感謝致します。

札幌神学校の開校式、および開校記念礼拝 2022.4.5(火)

「ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」 — 使徒行伝1:8 —

2022年4月5日は、開校式及び開校記念礼拝が、札幌プレミアホテルが開かれ、韓国の汝矣島純福音教会、および汝矣島純福音新アンサン教会がインターネットによる映像中継で接続し、同時進行で行われました。

札幌神学校を開校まで力強く導いてきた志垣重政牧師は、「札幌神学校の開校はチョー・ヨンギ牧師の夢であり、イ・ヨンファン牧師の目指す世界宣教の重要な戦略である。日本宣教の原動力としての役割を果たす。」と述べ、開校を宣言しました。



札幌神学校の開校式、および開校記念礼拝(続き)



開校記念礼拝でのメッセージ

汝矣島純福音教会の担任牧師であり、札幌神学校の学校長、イ・ヨンフン牧師は使徒行伝1:8の聖句を用いて、「証人になりなさい」という主題で、「聖霊が臨まれると、権能を受けて証人の人生を全うすることができる。だからこそ、主の僕となる札幌神学生は、日本宣教に命を賭けて臨まなければならない。」と一期生に向けて強い言葉でメッセージを語りました。

また、「チョー・ヨンギ牧師が、日本一千万救霊のために日本全域を回りながら、御言葉を宣べ伝えた。今日、神学校に入学した神学生だけでなく、すべての聖徒がこの使命を受け継がなければならない。志垣牧師をはじめ、全聖徒が心をついにすれば、日本一千万救霊の歴史を必ず作り上げることができる。」と純福音東京教会の聖徒を激励しました。

開校式、および一期生の入学式

イ・ヨンフン牧師は、パク・ダビデ、パク・ジョンピル、シン・スンガン、山中太輔、ジョン・ブホ、チェ・ミジョン、ハン・ギョンヨン合計7人の入学生の名前を呼び、入学許可を宣言しました。

名誉顧問であるチェ・ヨンウ牧師からは祝辞があり、「この学校を通して、モーセのような霊的指導者、エズラのような神学者、ペテロのような説教者、パウロのような伝道者が排出され、日本の一千万の魂の救いの働きが、早く成し遂げられると確信する。」と札幌神学校を祝福しました。

札幌神学校の教授である大阪太郎牧師からは、歓迎の辞があり、「神学生が2年間を聖別して臨む訓練は、日本の未来のために貴重であり、それは日本の一千万の魂を救いに導くのに必要な霊と肉と魂の人格的成長ができるものである。」と神学生に伝えました。

札幌神学校の開校に向けて準備した3年半、純福音東京教会の北海道宣教会を始めとし、多くの聖徒様の祈りと献身で、数えきれないほどの困難を乗り越えて、札幌神学校のスタートを切れた奇跡に感謝し、主に栄光をお捧げします。

崔龍雨(チェ・ヨンウ)牧師 招請・祝福聖会

2022.5.3(火)~5(金)



純福音東京教会はヨイド純福音新アンサン教会担任牧師であり、札幌神学校の名誉顧問である崔龍雨(チェ・ヨンウ)牧師をお招きし、5月3日(火)5月5日(金)までの3日間、祝福聖会を開催し、礼拝をお捧げしました。

人生の凶面、すなわち各々が抱いた目標やビジョンを主の御前に持って来こななければならないこと、そして、全ての権勢の上にいるイエスの御名で敵を追い払い、恐れずに、大胆に、目標やビジョン成し遂げなければならないし、成し遂げることができることを語りました。

聖会初日

「なぜなら、大祭司によって罪のためにささげられるけもの血は、聖所のなかに携えて行かれるが、そのからだは、営所の外で焼かれてしまうからである。だから、イエスもまた、ご自分の血で民をきよめるために、門の外で苦難を受けられたのである。したがって、わたしたちも、彼のはずかしめを身に負い、営所の外に出て、みもとに行こうではないか。」 — ヘブル人への手紙 13:11-13 —

「営所の外でのいけにえ(ヘブル人への手紙 13:11-13)」という主題でメッセージを取り次ぎました。

新約時代を生きる私たちは悔い改めて清くなるためには何が必要であり、なぜ重要なのか。それを旧約時代の罪の贖いから解き明かしました。

そして、私たちはキリストの血潮により清くなり、世的なものは聖霊の火で営所の外で燃やし、悔い改めなければならないことを改めて強調し、述べ伝えました。

聖会2日目

「そこでイスラエルの人々の全会衆は、その地を征服したので、シロに集まり、そこに会見の幕屋を立てた。その時、イスラエルの人々のうちに、まだ嗣業を分かち取らない部族が、七つ残っていたので、ヨシヤはイスラエルの人々に言った、「あなたがたは、先祖の神、主が、あなたがたに与えられた地を取りに行くのを、いつまで怠っているのですか。部族ごとに三人ずつを出しなさい。わたしはその人々をつかわしましょう。彼らは立って行って、その地を歩き巡り、おのこのの嗣業のために、それを凶面にして、わたしのところへ持ってこなければならない。」 — ヨシヤ記 18:1-4 —

「おのこのの嗣業のために、その地を凶面にして持って来なさいなさい(ヨシヤ記 18:1-4)」という主題でメッセージを取り次ぎました。

聖会最終日

「それから一つのたとえを話された、「いちじくの木を、またすべての木を見なさい。 — 中略 — これらの起ろうとしているすべての事からのがれて、人の子の前に立つことができるように、絶えず目をさまして祈っていなさい。」 — ルカの福音書 21:29-36 —

「永遠の災難に備えなさい(ルカ21:29-36)」という主題で、終末に起こるとされる予言の解説を交えながら、今私達クリスチャンが行うべき備えについて、詳細に語られました。われらの避け所はイエス様だけ、常に目を覚まして祈り、心を鈍くさせる貪欲を取り除いて、聖霊に満たさなければならぬと伝えました。



チェ・ヨンウ牧師は、3日間を通して主のメッセージを取り次ぎ、新型コロナウイルスによるパンデミックの影響がまだ残る中、疲れている聖徒たちに4次元霊性をもって再び挑戦できる力を与えました。

参加した多くの聖徒が、教会と隣人、自分のため、様々な問題の解決のために神様に熱く祈ることができ、喜びと祝福が溢れる聖会となったことを主に感謝をお捧げします。



2022年 浸礼式 @秋川祈禱院

2022年7月18日(月)



「それとも、あなたがたは知らないのか。キリスト・イエスにあずかるバプテスマを受けたわたしたちは、彼の死にあずかるバプテスマを受けたのである。 — 中略 — もしわたしたちが、彼に結びついてその死の様にひとしくなるなら、さらに、彼の復活の様にひとしくなるであろう。」
— ローマ人への手紙 6:3-5 —

2022年7月18日、秋川祈禱院で浸礼式が行われました。世の中は3連休で絶好の行楽シーズンであるにも関わらず、浸礼の生まれ変わりの現場に立ち会うため、たくさんの純福音東京教会の聖徒が集まりました。

秋川祈禱院の周辺は、数日前から大雨警報が発表されるなど、非常に不安定な天候が続いていましたが、神様の恵みで、洗礼式の当日は雨が上がり、むしろ晴天の中で洗礼式が進められました。

浸礼を受けた聖徒は48人となり、浸礼式のために、対象者は3週間にわたって浸礼教育を受け、また、純福音東京教会では7月11日～15日の5日間、浸礼式特別早天祈禱会を執り行い、祈り備えてきました。

浸礼式を実施するにあたり、志垣重政担任牧師は浸礼式礼拝を導き、「バプテスマ」という主題でローマ書の聖句を用いて御言葉を語り、「イエス様の痛みを知り、イエス様の復活を知り、イエス・キリストと1つになることで、復活の力を得て、奇跡を体験することができる」と伝えました。

礼拝を捧げて間もなくして、緊張と期待の中で、連合聖歌隊の美しい賛美と共に、浸礼式が行われました。

浸礼を受けた聖徒は、ハレルヤ!と告白し、イエス様を受け入れ、新しい人となりました。浸礼を受け、これから世の光として生きる聖徒の人生に、神様の恵みが溢れますようにお祈り致します。



志垣重政担任牧師コラム

『 喜びの泉 』

† Jesus ♥ Spirit
 Bible Pray
 Dedication

「最後に、私の兄弟達よ。主にあって喜びなさい。先に書いたのと同じ事をここで繰り返すが、それは、私には煩わしい事ではなく、あなた方には安全な事になる。」
 - ピリピ人への手紙 3:1 -

この手紙は、パウロがローマの監獄で書いたものです。処刑される事も知っており、絶望的な環境の中で、ピリピの聖徒達を励ます手紙を書いたのです。何故、その様な事ができたのでしょうか。パウロの心の中に喜びの泉が湧いていたからです。喜びは人生のエネルギーであり、喜び無しの人生に価値を見出す事はできません。人々は、喜びを富貴栄華の中に見出そうとしますが、全く的外れであり、虚しい行為にすぎない事に気が付きません。では、永遠且つ確実な喜びを見出す為にはどうしたらよいのでしょうか。

まずは、喜びの源泉は神の御許にある事を悟りましょう。「あなたは命の道を私に示される。あなたの前には満ち溢れる喜びがあり、あなたの右には、とこしえに諸々の楽しみがある。(詩篇16:11)」神との交わりがあれば、言葉では言い表せない喜びを得る事ができます。イエスキリストは、神と私達を隔てていた垣根を十字架の贖いで取り除く事により、神から流れ出る喜びを私達に下さいました。イエス様だけが、唯一なる喜びへの道、喜びの源泉なのです。

第二に、聖霊を認め、歓迎し、もてなし、全てを委ねる事により、喜びを得る事ができます。

第三に、御言葉を学ぶ事により、喜びを得る事ができます。(エレミヤ15:16) 御言葉を悟る事は、神の真理を知る事です。御言葉の上に土台を築く人は、煩い・怖れ・不安から解放されます。

第四に、祈る事により、喜びを得る事ができます。苦しい時、逆境にある時ほど、熱心に祈らなければなりません。不安や恐れが嘘の様に消えてなくなります。悔改め、全てを主に委ねる事ができる喜びが皆さんと共にあります様に。

第五に、聖徒との交わりを通して、喜びを得る事ができます。(マタイ18:19-20) 聖徒間の交わりを通して、互いの信仰を強め合い、信仰の成熟をもたらし、真の喜びに触れる事ができます。但し、世的な交わりではなく、常に礼拝中心、祈り中心の交わりでなければなりません。

最後に、主の事業に参加する事により、喜びを得る事ができます。神を受容れ、聖霊充滿となり、祈りや聖徒との交わりを通して喜びを得たら、その泉を涸らしてはなりません。その最も良い方法は、主の事業に加わり、献身する事です。「主を喜ぶ事はあなた方の力です。」(ネヘミヤ8:10) この喜びは、この世の栄耀栄華から得る事はできません。

どうぞ皆さんの真の喜びが満ち溢れます様に。

北海道宣教 & 浸礼式

2022年7月24日(主日)~28日(木)

祝福聖会(24日)



わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。— 中略 — あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう。— ヨハネの福音書 15:5-8 —

24日(主)は午後7時から札幌聖殿で祝福聖会が捧げられました。志垣重政担任牧師は「豊かな実を結ぶ為に」(ヨハネ15:5-8)という主題でメッセージを取り次ぎ、枝としてイエス様に繋がっている私たちは実を結ぶ存在であること、実を結ぶために父なる神様が私達を見て、日々整えてくださっていることを伝え、恵みを分かち合いました。

浸礼式&賛美礼拝(27日)

27日(水)は、温泉と紅葉で有名な定山溪の川に訪れ、札幌聖殿の聖徒を対象とした浸礼式が行われました。神学生と宣教チームの賛美と共に浸礼式が行われ、参加者は、この日浸礼を受けたキム・ユドン聖徒の祝福を祈りました。



同じ日、午後7時から札幌聖殿で、賛美礼拝を捧げました。この日は札幌神学校の神学生の導きで、10名弱の初来者が教会に訪れました。札幌神学校から福音の種が撒かれ、日本中に主の栄光が現れることを、改めて期待させる礼拝となりました。

